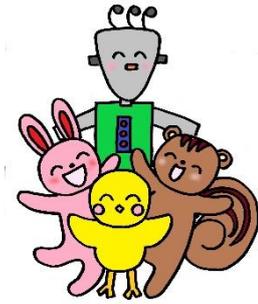


# 幼保小交流だより

札幌市立白楊幼稚園 No.2 令和6年(2024年)11月



## 5・5デー

### (5歳児と5年生の交流③④)



1回目と2回目は幼稚園で交流を行い、緊張が解けて仲良くなってきた子どもたち。前回の交流の終わりに、「次は何をして遊びたい？」と5年生が聞いてくれてやりたいことを伝えていました。夏休みを挟んで、次は小学校での交流ということで、ドキドキワクワクしながら体育館に向かいました。

8月30日(金)



3回目の5・5デーは、5年生が企画した「運動会」を楽しみました。2回目の交流の最後に、5歳児から「鬼ごっこがやりたい。」という声が多かったのを受けて5年生が考えてくれました。幼稚園の子どもたちは自分のグループのお兄さんお姉さんを見つけて駆け寄って行ったり、抱きついたり、声を掛けたりする子がいました。5年生も幼稚園児との関わりに慣れてきて、すぐに「こっちだよ〜」「おいで〜。」など一人一人に言葉を掛けてくれました。

5年生が考えてくれた運動会、幼児の中にはルールがすぐには飲み込めず、困っている様子の子も見られました。5年生は目線を合わせてやり方を伝えてくれたり、困っていることに気が付いて手を差し伸べてくれたりする姿がありました。

5年生の活動のねらいの中に、『幼児の思いや育ちを理解し、望ましい接し方を考える』ということがあったので、私たち幼稚園の教師は、すぐに幼稚園の子どもたちにルールの解説をするのではなく、5年生がどう関わろうとするのかを見守ることで、温かい関わりがたくさん生まれました。

園に戻り、子どもたちと5・5デーを振り返ると、「障害物競争で段ボール叩く時、ここだよって教えてくれた。」「水飲む？とか優しく聞いてくれた。」「的あて楽しかった。」という話題から「全部楽しかったから遊びオリンピックの金メダルあげたい。」「今まで優しくしてくれた金メダルがいい。」「皆の時間で金メダル作ってあげようよ!手裏剣も作ってあげたい。」など、話はだんだんと『優しい5年生にお返しがしたい。』という気持ちの話になっていきました。



9月6日(金)

4回目の最後の交流は、小学校の視聴覚室に招待されました。5年生は全員仮装し、まるで仮装パーティー。幼稚園用の衣装も用意しており、皆で仮装しながら5年生が考えた様々なゲームを楽しみました。以前に増して自然に触れ合う姿、肩を寄せ合う姿や抱きしめ合うようなスキンシップもたくさん見られました。着替えさせてもらう時も、嬉しそうな表情が溢れ、最初の交流の時に緊張していたことが嘘のようです。5年生と繰り返し関わってきた中で、嬉しい気持ちと、親しみの気持ち、憧れの気持ちがたくさん育まれていることが感じられました。



何と言って金メダルを渡そうか？



5年生とタッチしたい！



優しく着せてくれたよ。



目を見て話し掛け  
耳を傾けてくれたよ。

## 5・5デーを振り返って

昨年までは本園と白楊小で交流しておりましたが、今年度はちあふるきたと5年1組、白楊幼稚園と5年2組が交流をしました。先日、白楊小学校に教師と保育士が集まり、交流の内容や意義、今後の課題などを話し合いました。

5年生は5歳児と直接触れ合うことで、思っていたよりも  
できることが多いことに気づき、計画を見直していた。

交流を通して5歳児は、小学校は楽しい場所  
というイメージや小学生は優しいという憧れの  
気持ちをもつことができた。

交流後、5歳児から何か見せるなどお返しをしたいという声がたくさん聞かれた。就学する前にもう一度会う機会をつくれませんか？

→2月に休み時間を活用して小学校に行くことが決まった。



一緒に作業できるのがよいのでは？と5年生が考えキャンプごっこをすることに。どこからなら一緒に作れるかを考えてテントを作ったり、サプライズで誕生会をしたりするグループもあるなど活動の自由度があることで相互の関わりが増えた。

5年生の「もっと準備したい」という思いが強く、次回の交流までの期間が長い方が良かったかもしれないが、授業時間としては都合がよく回数や取り組む期間としては良かった。

特に「一緒にグループ名を決める」「キャンプごっこ」など、幼児も思いや考えを出せるような活動が幼児のコミュニケーションの意欲を高め、5年生の温かな関わりがモデルとなり、5歳児の学びにつながった。

交流の前後に教師間で話し合いをもち、メールなどでそれぞれの取組の進捗などの連絡を取り合いながら交流を進めることで、互いの教育の理解にもつながり、交流の意義が高まったと感じました。